

「研修会等名称：全国私立大学 FD 連携フォーラム 2016 年度第 1 回総会・パネルディスカッション」

場所：立命館大学大阪いばらきキャンパス

期間：2016 年 6 月 5 日(日) 13:00～17:00

当日は 25 大学から計 47 名が出席。前半は本年度第 1 回の総会が行われ、2015 年度活動報告及び 2016 年度活動方針、2015 年度決算及び 2016 年度予算、規約改正案等が諮られ、いずれも承認された。

後半は加盟校による話題提供とパネルディスカッションが行われた。今回は「大学のグローバル化への対応」をテーマとして、加盟校の取り組み状況が紹介された。

話題提供 1：芝浦工業大学のグローバル化のとりくみ

私立理系大学ゆえの弱点(国立大学ほどの設備投資ができない、グローバル化対応も独自予算のみではできることが限られる)を、企業・研究機関との共同研究、国の補助金事業などに参画していくことで補い、教職員や学生の意識も徐々に変化していった。その結果スーパーグローバル大学等創生支援事業に採択され、これとほぼ同額の学内予算も確保することができた。「アクティブラーニング」と「価値共創教育(教員と学生がともに成長することで教育と学修双方の質保証を目指す)」を核として、「グローバル PBL(project based learning)」や学生ポートフォリオの導入、さらに年 2 回の教職学協働ワークショップ等により教育へのフィードバックを行っている。

話題提供 2：龍谷大学におけるグローバル化に向けた取り組み

龍谷大学第 5 次長期計画でのスローガン「進取と共生 世界に響きあう龍谷大学」の具現化として「多文化共生キャンパス」を目指す。具体的には、グローバル教育推進センターを立ち上げ、グローバルコモンズのプラットフォームとして「和顔(わげん)館」と名付けた自律型学修支援施設を設置した。また昨年度より正課外プログラムとして「シンガポールで学ぶビジネス英語&グローバルビジネス入門」「グローバル人材育成プログラム～海外インターンシップ in Singapore」をスタートした。

話題提供 3：創価大学のグローバル戦略とその実践

国際交流の歴史は古く、中国、ロシア、キューバ、ケニア等 54 か国 181 大学と協定し、そのうち約半数と学生交換交流を続けている。創価大学では「グローバルモビリティ」「グローバルラーニング」「グローバルアドミニストレーション」「グローバルコア」の 4 つを柱とするスーパーグローバル構想があり、その中でも学生交流と外国人留学生受け入れを促進するため「日本語別科」「国際学生寮」「英語による授業の実施」「大学独自の奨学制度」を 4 つの駆動輪と位置付けている。ただし、海外志向の弱い学生への動機づけや、非英語圏大学との交流拡大といった課題がある。

話題提供 4：京都産業大学のグローバル化についての取組

海外での学びの促進策として、海外インターンシッププログラムの開発や英語教育改革(全学部 8 単位必修化、1 クラス 20 名で習熟度別編成)に取り組み、学部別に TOEIC スコアの目標を立て、段階的に高度なプログラムを用意する KSU 英語プログラムを開発した。また「グローバル理系産業人育成」を目指す GGJ(Go Global Japan)事業を推進。教育面のみならず、3 つのポリシーや履修要項など学内文書を英文化していくことで、教育環境のグロ

ーバル化を図っている。

これらの話題提供の後、発表者によるパネルディスカッションがあった。参加者との質疑応答形式で、特に印象に残った質疑は以下のとおり。

Q：教育面でのグローバル化の秘訣は。

A：グローバル化教育はカリキュラム改革と一体のもの。この点で教務事務と連携した取り組みが必要となる。

Q：日本人学生が英語による授業についていくことができるのか。

A：課題プリント等を配り、予習してくればなんとかなる難易度に設定している。

Q：内向きになりがちな学生を海外志向にする方法は。

A：受入外国人留学生が増加することで、キャンパス内で国際交流を可能にしている。グローバルコモンズなどハード面を強化して、学生同士の協働を促進している。海外プログラム体験者のアウトプットをなるべく発信していく。

Q：グローバル化に求められる教職員の資質とは。

A：つまるところ、楽天的な思考ではないだろうか。困難なミッションでもポジティブに受け止めることが重要。

各大学とも興味深い事例報告であったが、英語教育以外でのグローバル教育の取り組み事例をもう少し伺えとなおよかったと思う。

なお余談であるが、開催地となった立命館大学大阪いばらきキャンパスは2015年度開校とのことで、会場も非常に新しく立派な設備であった。特に会場のあるB棟は茨木市との共用施設ということで、建物内で学生以外の市民のみなさんも多く見かけることができた。また敷地は住宅地と隣接しており、キャンパスと地続きで大きな公園が整備されており、日曜日ということもあって小さな子供がたくさん集っていて、地域と共生するキャンパスとして非常によい環境であると感じた。

以上